

第24回・第3期第5回宝塚市協働のまちづくり促進委員会 会議録	
開催日時	平成30年3月28日（水）18：30～21：00
開催場所	宝塚市役所3階 特別会議室
次 第	1 開 会 2 議事録の確認 3 議 事 (1) 「協働の事例集」について (2) 協働のしくみづくり検討部会作業班からの進捗報告 4 その他 (1) 今後の宝塚市協働のまちづくり促進委員会の開催日程について (2) 花と緑のフェスティバルについて (3) スタッフジャンパーについて 5 閉会
出席委員	久委員長、石谷委員、平石委員、喜多委員、古村委員、足立委員、中山委員、藤本委員、野田委員、溝口委員、飯室委員、成瀬委員、加藤委員、檜垣委員、光村委員
開催形態	公開（傍聴人2）、関西総合研究所2人、OM環境計画研究所2人

1 開会

第24回・第3期第5回宝塚協働のまちづくり促進委員会の開会。

事務局から、本日の出席者は**15人出席、欠席者は3人**であること、宝塚市協働のまちづくり促進委員会規則第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は2人であることを報告した。

2 議事録の確認

久委員長より、協働の仕組みづくり検討部会（第13回・第3期第2回）議事録の内容の確認が行われ、修正等は無かった。

3 議事

(1) 「協働の事例集」について

協働の指針説明会のビデオ視聴 冒頭5分のみ（良元の中会長撮影）

市「協働の事例集2」が完成したので配布している。先日、檜垣委員、喜多委員が出席して市長の定例記者会見で発表した。

完成したジャンパーが事務局から披露された。事務局から、背中に後ろ姿のまちキョンを入れたと説明があり、花と緑のフェスティバルには着用して参加してほしいと呼びかけがあった。

(2) 協働のしくみづくり検討部会作業班からの進捗報告

冒頭に、作業班の加藤委員からガイドラインの案について議論の経過が報告された。

- ・「はじめに」は初めて計画について知る人や、関心のない人もいることを意識して、①まちづくり計画とは、②なぜ市民にとって計画が必要なのか、計画の存在そのものについて知ってもらう内容にしている。
- ・地域と書いて「まち」と読むことにしている。
- ・計画は誰がいつまでに、どのように作るのか、まちの将来像に向けてどうするかを示している。将来像は、将来地域がこうなればいいなというイメージを描くということ。
- ・なぜ計画が必要かは、計画を作ることによって頭の中にあることを可視化して明確にし、共通の目標にするため。
- ・まちづくり計画を通して将来像を共有することで、まちづくり計画の作成、実行の団体に多くの人を巻き込んでいくことを大切にしている。
- ・図は、10年後、まちがこうあってほしいという将来構想と基本目標にしたがって具体的な取り組みをまとめ、5年など具体的に区切らないで必要に応じてふりかえりながら進めるイメージを示している。
- ・なぜ見直しをするのか。なぜガイドラインが必要なのかも記載している。前回の計画は45%しか達成できていない。前回の計画は市民が主体で作り、行政が一緒になっていなかったの、より具体的に実現し、確実に取り組まれるように行政も一緒になって作るガイドラインとしている。
- ・一部の人を作るのではなく、公開性、透明性を持ち民主的に進めていくためのガイドラインを作っている。
- ・「本文」については、p1の計画期間が平成32年から10年となっているが、総計にあわせるなら平成33年からがよいと思われる。
- ・p6で計画書の構成を示している。今回は施策をまとめたが、今回は将来像、基本目標、具体的な取り組みの3つで構成する考え方にしており、施策を入れていない。
- ・p7に整理例を示しているが、具体的な取り組みについては、評価や進捗チェックがしやすいように工夫できればよいと考えている。5年たった段階でふりかえって見直しをする。

ア 【会長】 ご意見をお願いします。

イ 本文のp1の「誰が計画を見直すのか」について、提案したい。見出しは「誰が“どのように”見直すのか」として、「どのように」を追加する方がよいと思う。「さまざまな考え、さまざまな分野で」と同じ言葉が繰り返されるので、「幅広い世代、いろいろな考え方を持った人、さまざまな分野に詳しい人」と変更してはどうか。「こうした地域で暮らす人」は、「こうした」が「地域」にかかるようで紛らわしいので、“こうした「地域で暮らす人」と、「」をつけてはどうか。意見や思いを広く聞くのは大事なので、「意識しましょう」ではなく、「広く聞きましょう」と言い切ってはどうか。同様に、7行目の「めざしましょう」は、「議論をしながらまとめていきましょう」と言い切る方がよい。「活動されている人」という表現は、受け身な参加にも受け取れるので、「活動してきた人だけでなく、さまざまな分野で活動した経験から意見や考えのある人に入っていた中で…」の方がよいと思う。「関心を持った人を募ったり」の部分は、「関心を持った人や、地域で活動されている団体等に」としてはど

うか。

- ウ 【会長】いかがですか。最終的には、作業班で協議してください。
- エ p 8の整理例の表のスケジュールの部分がわかりにくい。○のつけ方がわからない。
- オ 具体的な取り組みの書き方によるが、それが難しい。まだ作業班の中でももめていない。ずっと継続するから、どの年にも○ということもある。内容により変わってくる。具体的な取り組みをどう表現するか、もう少し詰めるべきで、検討課題。基本目標があって、具体的な取り組みがあり、これをスケジュールとして示しているということ。
- カ 前は短期、中期、長期としていたものを、今回は具体的な取り組みは5年に区切った。目標は10年だが、具体的な取り組みは前期5年、後期5年に分ける。まち協によっては役員が2年交代かもしれないので、2年ごとの計画なら2年度分に○をする。ターゲット期間のイメージ。ただし、これについて作業班でもまだ詳細の議論をしていない。
- キ 3年で終わりたい。やるというときは○を3年分つけるということか。
- ク 【会長】2年で検討して3年目以降に実施ということもあるだろう。ずっと継続する時は→を引くというやり方もあるかもしれない。表現は工夫できる。
- ケ 具体的な取り組みには継続するものも、作って終わりのものもある。
- コ 表現を工夫しないといけない。声かけを1年めは隣近所、2年目は広げてステップアップするというケースもある。もう少しつめたい。カタチのあるものはよいが、カタチのないものをどう評価するのか。事例をコンサルに探してほしいと思っているが、皆さんからも知恵がほしい。営業だと数字があるが、内勤だとどんな目標にするか。まちづくり計画はどんなカタチだと評価しやすいか。
- サ 記入例としては5年計画なら○を5つつけるという受け止めだろう。中長期計画として毎年見直していくということで○が連なる。地域により、記入がまちまちになる懸念がある。今の意見を聞いて気づいたが、→の方がわかりやすいかもしれない。記入の仕方がわかればよいが、受け取り方がずれるのが心配。
- シ ○でなく、1年目は…、2年目は…と言葉で表すのがよいのでは。提出するものであっても、○より、言葉でまち協の様子がわかれば、こんな風に進んでいくのだなと受け止められる。どういう時に○をつけるのかが、わからない。
- ス 矢印でもかまわない。計画の中身がわかりやすいことが大事。地域の人が読んでどんな計画なのか誰でもわかること。たとえばサロンの開催でも、どこで開催するのか、どこに作るのか、何回開催するのか。自分たちができたかどうか確認しやすいものにする。そこをわかりやすく示すのがガイドラインの目的。以前のものは抽象的な表現が多くて作った人が評価できなかったのだ。
- セ p 9にある進捗管理と見直しについて。1年ごとにやるのが進捗管理で、5年めにやるのが見直しと使い分けをしている。進捗管理は毎年やる。もちろん計画を毎年変更してもよいが、5年たったらしっかり見直す。その時にガイドラインを使えるようにしておくのではどうか。前回計画は、進捗管理はやったが、見直しはしていない。つけ加えとして、5年ごとに見直す時のガイドラインも使うのはどうかと思う。
- それから、達成率を出す必要があるのかどうか。完璧で100%終わっていないとだめなの

か、現状よりもよくしていくための計画なら、よりよくなっていれば○でよいのか。進捗率とあわせて、もう一度考えたい。

ソ 進捗管理と見直しの記述が、計画づくりに比べて薄い。1月25日の議事録をみると、前回なぜうまくいかなかったのかの原因は、市民がやることは進んだが、協働でやること、行政がやることについてつめがでなかった。平成22年の見直しで市はフローチャートを示してチェックし、続けるか残すか議論したが、見直しは仕組みとして機能しておらず、進んでいなかったとある。ここをもう少しつめて文章を入れたほうがいい。PDCAという話もあったが、そのあたりとしっかり入れた方がいい。p8の役割分担の記載はとても良いと思う。チェックする時もガイドラインでという意見があったように、「誰がするの」が明らかで摺合せできるのがよい。「みんなの意見を聞く」という表現がよく出てくるが、1月25日の議事録に、「当事者に聞くとか、子育てのことを子育て世代に聞く」という記録があり対象者が明確に出てきている。もれやすい人に聞くことを盛り込んでどうか。

タ 1年ごとにどこまでやったかを文章にするのは賛成。5年後どこまでになっていたのかがはっきりわからないと、評価できない。この計画がまとまれば、単年度のまち協の事業計画も変わってくるのではないか。そこがポイントかなと思う。

チ 【会長】整理例は、元にある文章があった中で網羅的に整理したというイメージで、表だけで伝えるのはひじょうに難しいと思う。

ツ 計画を作る立場から、このガイドライン案を見てほっとしている。とても分かりやすい。細部にわたってがちがちに固められるような内容ではないので、やりやすそうではほっとしている。よくできていると思う。

ただ、要望がある。行政と市民が企画の最初からフェイストゥフェイスで議論するのがよいと思う。最初にどんな話し合いをするかがポイント。そうすると、p8の図のようにはならない。最初の議論から行政と一緒に議論してやらないと。

テ 【会長】この図は、右に進む時間軸ではない。役割分担の量を示している。

ト 私のように間違える人はいませんか。

ナ ②はまち協が開催するおまつりに市が後援するようなケース。実行するのは市民。④はハーフマラソンに市民が協力するようなケース。そんなイメージ。行政だけがやるということはない、ということ。俺たちは何もやらんということはない。道路でも、実行するのは行政かもしれないけれど、住民も協議に入る。

ニ どのケースでも最初から話し合うので、最初から話し合うというのは、協働のパターンに関係なくどの場合にでもあてはまる。

ヌ 【会長】尼崎での協働の評価を、この表で行ったことがある。行政は②だといったのに、パートナーの市民・団体は④ということがおこる。同じことをやっているのに、役割分担の意識がずれていた。一方的に決めるではなく、お互いに調整して納得の中ではじめに決めておくことが必要。すべてにわたって話し合う必要がある。

ネ そのような表現を追加してほしい。誤解しやすい。計画はみんなが理解できないと。この図は最初は市民が中心で議論して、次第に行政が中心になるように見える。

- ノ 点線で区切るのはやめた方がよい。協働の基本が前提なので説明が難しい。
- ハ 具体的な取り組みをあげていくときに、これは②、これは①となっていく。具体的な取り組みによって役割分担を考えながら決めていく。たとえば道路のグリーンベルト。地域からの要望であっても、地域はお金を出してできない。ここでは④になる。
- ヒ 市民は金を持っていないからできない。
- フ 声をあげた市民には行政が配分する。地域でこういうまちにしたいという将来像があって、プランがあれば行政はお金も人も出す。
- ヘ そのことは、p2の表に書いている。豊田市のケースを紹介する。協働の分類を、市民に行政が連携する分野、市民と行政と一緒に活動する分野、行政活動に市民が算入する分野、行政が専属的に行う分野、市民が専属的に行う分野、などにわけている。こういう説明ならわかりやすいか？
- ホ 斜線があるから誤解されやすいのではないか。斜線を消してはどうか。
- マ 【会長】この図は協働の指針でまとめたものなので、これを変更するのは指針を変えることになり、難しい。
- ミ 誰が主体でやるのかは、一致していない。住民がやるけど市役所は共催するのか補助するのか、援助の仕方にも温度差はある。そこをはっきりさせて取り組まなきゃというのが指針の論議だった。
- ム 作業している図じゃなく、計画づくりの図でしょう。紛らわしいのはやめてほしい。
- メ 計画づくりの段階もあるし、実行段階もある。段階によりウエイトは変わってくる。
- モ 斜線にこだわらないでほしい。はじめは、ブロックごとにまちづくり計画を作っていた。2年かけて十何回のフォーラムをやって作った。その中で、まち協から地区ごとにつくりたいと声があがって地域でつくるようになった。ブロックごとでは自分の計画にならない、地域で作ろうということになって、それを受けてガイドラインを作った。よりよい計画をつくりたいという思いがあった。前の計画がうまくいかなかったのは、行政にも問題があったかもしれないが、地域にも改善すべきことはある。
- ヤ そこを理解して、地域に帰って伝えてほしい。
- ユ これでは、できない。
- ヨ 【会長】役割分担がきちんとできるかどうか、大きな山だ。なんでも行政にやらせてしまえ、というのでは行政も動けない。たとえば道路は行政がつくるべきという話があったが、それも違う。昔は村には出し合いと言うやり方があった。みんなの土地を出し合って協力して道を作った。大阪市阿倍野区昭和町でリノベーションした長屋が活性化している。寺西家阿倍野長屋の寺西さん宅の前の道路は半分だけ石畳になっている。なぜ半分だけか。昭和の初期にできた道路がガタガタで市に補修を要望したら、誰の所有を確かめて、市のものならできるという話になった。調べると、半分だけ寺西さんの土地とわかって、大阪市の税金で工事することはできないと言われた。そこで、寺西さんが、せっかくリノベーションしてきれいになっているので自分で石畳にしたが予算がなくて半分だけになった。一見、市の土地のように見えて個人所有のこともある。道路はすべて行政がすべきことでもない。ニュータウンは分譲で道路や公園を共有している

ケースもある。管理ができないので市役所にお渡ししているだけ。誰のものなのか、考えてみることも大事。

郊外のニュータウンでも、30代で見晴らしのいい高台の家を買って喜んでいても、年を取ると坂を上れない、歩けないのでバスを走らせてほしいということになる。これは行政に求めることでなく、自分たちの問題。自治会でタクシー会社と契約して乗り合いにしてもよい。そう考えると、②から④はちゃんと議論しておかないと、なんでも行政かというと思う。

ラ 指針を作る時の議論を思い出した。その時、この図は、市民でやることは白、行政は赤にしていたので、協働の領域はピンクにしようという話になった。しかし、それでは役割分担がはっきりしなくて、市民は市民、行政は行政の立場で協働するという意味で、あえてピンクにしないで赤と白にした。それぞれの役割があるから、そこをきちんと理解して地域で説明できるようにしたい。たった一人の誤解者もいないというのは、どんなに書き込んでも無理なので、ここにいる者が理解して説明していけばよい。

リ ①～④にどのような取り組みがあるのか、具体的に例を入れるとわかりやすいのではないか。時間軸でもウエイトでもない。簡単に考えてみてほしい。

ル 下の整理例に①～④に入る具体例を入れるとよい。

レ 【会長】①～④の解説を入れてはどうか。

ロ どこに入るのかは、室長級以上が見直し議論に入るのではっきりさせることができる。はっきりさせてから進むのが良い。

ワ それはわかるが、誤解しやすい。時間軸に見えないようにしてほしい。

ヲ 本文に、①市民が取り組むこと、②主に市民が取り組むこと、③市民と行政が取り組むこと…、と説明を入れてはどうか。

ン 図は、どうしても最初に市民が考えて、だんだん行政にもっていくように見える。

ア 【会長】逆にこの図で理解が進む人もいる。

イ この図でわからないところがあれば、説明すればよいのではないか。

ウ 【会長】百舌鳥古市古墳群のある古市小学校で、井戸端会議で夜が暗いという話になった時に、市職員の住民がよいアドバイスをしてくれた。電灯をつけるという要望をするとして、どうもっていくかで変わると。学童の帰り道の安全確保のためなら教育委員会がお金を出すことになる、自動車事故を防ぐためなら道路課、防犯目的なら自治会で防犯灯をつけるということになる。どんな理屈をつけるのかというアドバイスがあった。そんな議論ができればよいと思う。解説を加えるとよい。

エ 市民単独の領域は計画には入らないのか？ あえて外すのか？ 協働だけなのか。

オ 個人でやっているまちづくりもある。

カ まち協がつくる計画なので、NPOが単独で行うものは、視野には入れるが計画には入らない。計画書に入れるのは協働のエリアのみとした。

キ 老人会だけでやるという可能性はないのか。

ク いろんな団体が入っているからまち協で、それ自体が協働。

ケ まち協の単独の部だけでやることもある。

- コ まち協の事業計画に入っているなら、実際に動くのは単独であっても、承認しているのだから、それはまち協全体のもの。
- サ 「市と協働での計画づくり」の見出しを考え直しては。
- シ 具体的な取り組みの例示をしよう。評価ができる具体例だとわかりやすい。
- ス 【会長】評価はイエスノーではないと思う。段階で「A：とりあえず始めた」から、最終的には目標達成まで、いくつかのレベルで評価できるとよい。Aが何%というふうに。また、「始められるところから始めた」から、「すべてのまちで始まった」というふうに広がり方で評価するのもありだろう。
- セ あまり細かくすると作りにくい。あまりゆるいとできないし、難しい。まち協によって力量が違うので、ずれてもいい、認めようというくらいでないとできない。
- ソ 現状把握が大切。そのことを書いておいた方がよい。
- タ このガイドラインはまちづくり計画を作るためのもので、つくったあとのことが書いていない。総計とのからみがわからない中で作ることになるので、進捗管理の見直し、作ったあとのことは、別にマニュアルがいるのではないか。
- チ それがないと、前のようになる。簡単に誰もがができるようなものであってほしい。
- ツ 整理例に防犯パトロールがあるが、それが防犯でなく見守り、助け合いになっていたということもある。サロンでもコミュニケーションがよくなって、助け合いにつながることもある。それぞれの取り組みには予定していたものと違う効果もあるはず。
- テ 【会長】重要な指摘。p7にはツリー型の図があるが、取り組みは2つ以上の目標にぶらさがることある。
- ト 電柱をなくしましょうという取り組みは安全と美観の2つの目標にぶらさがる。同じ取り組みを2つにまたがってぶらさげてもよい。
- ナ うちの地域では、見守り、防災、居場所づくりの3つのキーワードで活動している。居場所ができれば見守りができるし、助け合いもできる。それぞれの達成率が高まれば三位一体なので3つとも上がっていく。具体的な取り組みに数値目標を入れると管理しやすい。達成度を見る尺度としてはわかりやすい。数値におきかえると誰でもよくわかる。
- ニ 数値目標にすると広がり良く見えないこともある。たとえばサロンを年間何回やったというときに、1人でがんばって「○」では疑問。数値目標を掲げるのなら事例としての表現例があるとよい。アウトカムとアウトプットがあわさったような。
- ヌ 【会長】安易な数値は危険なので慎重に考える方がよい。
- ネ 活動を増やされると、出来ないという拒否反応になる。役員のなり手もなくなる。数字にすると、「私ら、ようせん」という声が聞こえてきそうなので、数字はない方がよい。
- ノ 数字は尺度だけの話で、増やせということではない。
- ハ 地域では、サロンをあと2か所増やしたいねということもあるのに、できない事情がある。
- ヒ みんなが納得して、私これやるよという人がいれば問題ない。
- フ 地域によって現状は違う。差があっても協力してもらえませんかと進める。数値がなくても具体的な取り組みを書かないと。数値でなくても、具体的な取り組みを書かない

と、評価が困る。今事例になっているものは、ゆるやかすぎる。パトロールだけだと、どこまでやればOKかわからない。今後計画の質にかかわるので、どんな例示がよいのかつめていきたい。

へ 具体的な取り組みだの評価だけでなく、数値や内容もだけれど、その上の基本目標を達成しているか、将来像にあっているかという視点で評価した方がいい。たとえば電灯を増やさなくても、LEDにすればまちは明るくなる。電灯の数だけだと達成していなくても、まちは明るくなるなら評価できる。そういうふうを考えることについて、別のマニュアルを作ってはどうかと思う。

ホ 【会長】 p6だが、具体的な取組は、上にぶらさがらなくてもできるものなので、常々活動している人が上の目標を意識するのが大事。活動している人が評価した方がいい。評価部会が評価すると、現場でやっている人が勝手に動くということになるので、すべての人がピラミッドについて理解して評価した方がいい。それがポイント。活動のふりかえりの時に、計画書を見返すお願いをする。つくるのもみんなと同じように、つねに意識していくのも、ふりかえるのも、みんなで作るということを書いておいてほしい。

マ 私の地域では、防犯パトロールはPTAが毎日やっているのをまち協の活動とカウントするのか、PTAの事業なのか、という話になる。民生委員も声かけをしている。補導委員もしている。それはまち協じゃないというのか、構成組織なのでまち協としてカウントしてもよいのか。そうしたすり合わせはどうなのか。

ミ 【会長】まち協の事業かどうかでなく、まちづくり計画に基づいているかどうか大事。

ム まち協によってぶら下がり方が違う。単独でやるものもあるし、違うところもある。

メ PTA、老人クラブが登下校の見守りをしている。学校応援団もやっている。それもコミュニティの構成員。カウントの仕方をどうするのか。

モ 【会長】まち協は、ではなく、まちづくり計画がすべての手はずで実現する。

ヤ まち協によってそれぞれ違う。私の地域では、すべての団体の活動をカウントしている。複数の団体が見守りをすることでより安全になる。まちづくりの一環として各団体が動いている。それも計画に入れ込んでいくのがよい。バラバラにやると効率も悪い。

ユ どの団体もまちづくりの観点から動いているので、すべてカウントしてよいと思う。

ヨ 私はまち協に関係していないが、PTAが見守りをしているというと、自分が参加したいと思ったときにどう参加すればよいかと思う。まち協がやってるなら、入れるかもしれないと思う。カウントをどうするかより、ハードルが低くなってみんながまちづくりしようと思えるのがよい。

ラ PTAだけでなく、地域では自転車パトロールのプレートをつけて走っていたり、伊丹ではワンワンパトロールもある。補導員もいる。地域の人ならPTAでなくても誰でも入れる。ハードルはまったくない。

リ 【会長】このような議論を地域でやってほしい。まち協の意義、役割を共有できる。

ル 今活動している人を計画の段階で、「その活動は目標にそっているので、計画に入れさせてください」と了解をもらって巻き込んでいけばよい。参加意識も高まる。

レ 計画は目的じゃない。手段として計画書がある。目的は将来像の実現。計画は毎年かえていけばよい。まち協によって違うもの。

ロ 【会長】話は変わるが、まち協は「みんな」のはずなので、p5の図は、慎重に表現してほしい。まち協としてひらめいた人たちが円で囲まれていると一部の人の様にみえる。誤解されないようにしてほしい。

ワ p6の図について確認したい。過去は「施策」があったのを今回は外しているがオーケーか？

ヲ わかりやすいのでよい。

ン 【会長】あとは作業班と事務局にまかせたい。このまとめ方は、計画づくりの参考になる。つまり、みんなで意見を出し合い、まとめて、まとめたものをさらにたたいて、委員会に出していくというプロセス。こういうやり方で計画を作してほしい。

4 その他

(1) 今後の宝塚市協働のまちづくり促進委員会の開催日程について

5/22と5/14は久委員長の都合が悪いため再調整 → 5/28(月)で調整済み
作業班は4/5(木) 16:00～

(2) 花と緑のフェスティバルについて

野田委員から報告

(3) スタッフジャンパーについて

紹介された。

(4) 檜垣委員から情報提供

3/29 FMたからづか「つながるボランティア」に檜垣委員出演。阪神救助犬協会の取材で協働について話す予定。

(5) 藤本委員から情報提供

4/7 小浜宿桜まつり

(6) 中山委員から情報提供

6/21, 23, 29にホワイトボードミーティングの研修、進捗管理や企画会議など。夜、2時間3回。地域に案内してほしい。9月は日中に2時間2回で同じ内容を実施する予定。

5 閉会